

Title	ボナヴェントゥーラのフランシスコ伝について
Sub Title	
Author	坂口, 昂吉(Sakaguchi, Kokichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1964
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.37, No.2 (1964. 8) ,p.66(182)- 66(182)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19640800-0066">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19640800-0066</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## ボナヴェントゥーラのフランシスコ伝について

ドイツのフランシスコ会は一九五一年から、Franziskanische Quellenschriften を刊行している。これは初期フランシスコ会史料の独訳にその詳細な研究を附したものである。その第七巻として、Sophronius Clasen: Franziskus. Engel des sechsten Siegels, sein Leben nach den Schriften des hl. Bonaventura, Werl, Westf. 1962 が刊した。

これは、ボナヴェントゥーラの二つのフランシスコ伝、即ち *Legenda maior* と *Legenda minor* のほか、フランシスコに関する六つの説教、ならびに彼の諸著作に散見するフランシスコへの個々の言及をすべて独訳し、冒頭に二四八頁にわたる解説を附している。テキストとしては、二つの *Legendae* はつづつは *Analecta Franciscana* X p. 557-652; 655-678, Quaracchi. 1941 説教及び個々の言及については *Bonaventura, Opera omnia* 10 Bde. Quaracchi 1882-1902 によっている。 *Legenda maior* 及び *Legenda minor* のテキストは、ほかに *Opera omnia* VIII p. 504-564, 565-579, 1898 及び *S. Bonaventurae Legendae duae de vita S. Francisci Seraphici, Quaracchi* 1923 があり、各々多少の相違があるが、訳者としては最新のものによつたのであらう。現代語訳としては、*Everyman's Library* 485, London 1910 の中に、*De miraculis ipsius post mortem ostensis* の部分を除いた *Legenda maior* の R. Steele による訳があるのみと記憶する。

P. Sabatier 以来の近代におけるフランシスコ研究者は、ボナヴェントゥーラの *Legendae* の史料的价值を軽視している。それは、これが修道会公式の伝記という性質上、会則厳守派の支えとなる史実を捨象しているという偏見にもよつた。しかし、それよりも、この *Legendae* の基礎となつたツェラーノの *Vita prima, Vita secunda* が完全な形で復元され、ボナヴェントゥーラがこれにないような新事実を殆んど附加してないことが明かになつたからである。

訳者 Clasen も、フランシスコの生涯について史実を提供するという意味では本書の意義を認めていない。しかしボナヴェントゥーラには、ツェラーノにない面があつた。ツェラーノは、教皇庁、修道会の求めのままに材料を提供しながらも、結局確たるフランシスコ像をつかみえずして終つた。これに反しボナヴェントゥーラは、在俗司祭との清貧論争下にあつて、始祖の理想を従来の材料に基いてつきとめる必要にかられた。この意味で、彼はフランシスコ像をとらえた最初の人であつた。しかも彼は、当時次第に頭を拾げていたヨアヒムの歴史解釈の影響をうけて、フランシスコを救済史の中で如何に位置づけるかを問題にしていた。Clasen が *Legendae* のみでなく、フランシスコに対する彼の言及のすべてをまとめて訳出した意図も上記の点にあるといつてよい。実際、以彼十九世紀末にいたるまでのフランシスコ観を支配したものは、ツェラーノの諸伝記でもなく、まして *Speculum perfectionis* や *Actus B. Francisci et Sociorum eius* (I Fioretti) でもなく、ボナヴェントゥーラのそれであつたのである。

(坂口昂吉)